

No	寄せられた提案の概要 （類似提案はまとめています）	区の対応	区の考え・対応状況
1	妊娠中のRSウイルスと百日咳、学童期の百日咳のワクチン接種を啓発し、感染拡大を予防する。	令和8年度に実施予定	妊娠中のRSウイルスワクチンは、予防接種法の改正により、令和8年度から定期接種（A類）に指定されたため、妊娠28週から36週の方を対象に接種費用の全額を公費負担とし実施します。百日咳については、国や都の動向を注視し引き続き検討します。 ▶RSウイルスワクチン定期接種 https://www.city.toshima.lg.jp/564/2602060913.html
2	介護認定や障害認定を受けていないが一時的に移動困難となった方のために、公共の場所にシニアカーや電動車いすを設置する。	令和8年度に実施予定	障害者や高齢者などで、外出時に常時車いす等を利用しており、公共交通機関での外出が困難な方を対象に、「リフト付き福祉タクシー」の運行を令和8年度より開始します。介護認定や障害認定前の状況でも、条件に該当される状況であればご利用いただけるよう、柔軟に対応していきます。 ▶リフト付きタクシー運行委託事業 https://www.city.toshima.lg.jp/158/soumu/2602241047.html
3	認可保育園に通う第一子を持つ共働き夫婦が、第二子の出産以降に、第一子の保育時間が短時間認定となる制度を改める。	令和8年度に実施予定	育児休業中の在園の場合、原則は短時間認定とした上で、ご家庭の事情を考慮して認定時間を決定します。
4	国内でも多数の県・市が参加している「健康都市連合」に参加する。	既存事業にて実施	健康都市連合同様に「人々の健康増進」を目的としたスマート・ライフ・プロジェクト（厚生労働省、約1,200団体が参加）に参画し、健康に関する啓発活動を進めています。
5	障がい者が平日夜間や土日に集まり、相談や情報交換を行う場を定期的に開催することで、社会参加促進及び心身の健康を図る。	既存事業にて実施	類似事業を区で実施しています。需要や必要性を考慮しながら、事業拡充を引き続き検討します。 ▶余暇活動支援（障害者就労支援） URL https://www.city.toshima.lg.jp/172/kenko/shogai/2404231225.html
6	心と体の健康を促進する体験型のプログラムを実施する。	既存事業にて実施	としま健康チャレンジ！事業として、類似事業を実施しています。6月に開始するスマートフォンアプリ「としま健チャレ！」の利活用として、提案内容を参考にし事業内容の充実を進めます。 ▶としま健康チャレンジ！ https://www.city.toshima.lg.jp/209/2511170956.html
7	地域住民と学生が映画鑑賞を通じて交流し、世代や立場を超えたつながりを深める事業を実施する。鑑賞後の意見交換や交流を通し、地域活性化と高齢者の孤立を防止する。	既存事業にて実施	高齢者の方に人と話す楽しさを感じてもらう取り組みの中でも、高齢者クラブ会員（地域の高齢者）が集まって映画を鑑賞する活動があります。「オレンジ（認知症）セーフコミュニティ豊島を作る会」では、毎年認知症テーマの映画会といった取り組みを行っています。 また、高齢者クラブの活動には学生ボランティアの方に参画いただいており、認知症カフェ（区内22か所）は誰でも参加できる交流の場として若年層の方の参加も図っています。今後とも、地域の方がつながりを持って過ごせるような取り組みを進めます。 ▶認知症カフェ https://www.city.toshima.lg.jp/167/koresha/ninchisho/ninchishocafe-youkoso.html
8	幼児期健診時に子どものBMIを算出し、生活習慣病予備軍の子どもへ早期にアプローチする。	既存事業にて実施	乳幼児健診にて健康状態の診察や食事や生活習慣の指導を行い、必要時に応じて医療機関を紹介しています。 ▶子どもの健康診査（乳幼児健診） https://www.city.toshima.lg.jp/219/kosodate/kosodate/kenko/013117.html
9	全世代を対象とした睡眠健康相談窓口を設置し、講演会や専門家による個別相談を通じて、睡眠への意識向上と睡眠トラブルに対応する。	既存事業にて実施	睡眠障害等の悩みについては、精神科医によるこころの相談事業で対応しています。睡眠への正しい知識を習得できるよう、展示等での啓発を継続します。 ▶こころの相談 https://www.city.toshima.lg.jp/222/kenko/kenko/kokoro/jisatsuyobo/015473.html
10	部活動を含む学校生活における子どもの遊び場や体力づくり、公園の遊具不足への課題に取り組む。	既存事業にて実施	【部活動】 区立中学校部活動に専門的知識を持つ外部指導者を派遣する取組みを実施しており、令和7年度は全校に3,219回派遣を行いました。今後、HP等を通して豊島区の部活動改革の方針や取組みを周知していきます。また、「としま地域クラブ」の運営を通して、部活動以外の体験機会の場を確保していきます。 【公園の遊具】 「豊島区公園等再構築プラン」及び公園面積や整備コンセプトに基づき、公園新設・改修時、維持管理（修繕）時に遊具導入を検討しています。なお公園内の遊具配置においては、国土交通省指針で定められている遊具を安全に利用するために必要な空間（安全領域）確保が必要です。

No	寄せられた提案の概要 (類似提案はまとめています)	区の対応	区の考え・対応状況
11	理学療法士によるストレッチが必要な子どもに対し、通常学級や固定学級を含む各学校、幼稚園、保育園に理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が巡回指導を行う。	既存事業にて実施	巡回指導ではありませんが、教員や特別支援教育指導員が体育の授業や日常動作の中で身体の使い方に課題のある子どもに対して適切に指導することができるよう、理学療法士等の専門家の研修を受け、情報連携を図りながら支援を行っています。
12	不登校の子どもを持つ保護者負担を軽減するため、家庭訪問を行うケアサポート制度を構築する。	既存事業にて実施	区立学校在籍の不登校の子どもがいる家庭の要望に応じて、既にスクールソーシャルワーカー(SSW)が家庭訪問や面談を行い、登校支援方法の検討、適応指導教室やSSRの利用、フリースクール等の情報提供、ファミリーサポートの紹介等、関係機関や社会資源を活用して調整を図っています。登校支援を担う人材は不足しているため、人材確保方策については引き続き検討が必要です。 また、子ども家庭支援センター、児童相談所では、私立学校在籍の不登校の子どもがいる家庭も含め、不登校についての相談をすることができます。
13	様々な体験型のワークショップを通じて、メンタルヘルスへの気づきとケアのきっかけ作りや、相談の第一歩となることを目指す。	既存事業にて実施	区では、これまでストレスケアやスマホ依存をテーマに精神保健福祉講演会を実施しております。また、地域の精神障害者支援事業所等や小学校等と協働して「こころまつり」を開催し、地域のメンタルヘルスへの気づきとケアのきっかけ作りとなっております。 ▶こころまつり https://www.city.toshima.lg.jp/226/2011130826.html
14	AIや、インターネットチャット、LINE、動画通話を活用し、気軽に雑談からケア・医療サポートまでつなげる窓口を設置する。	引き続き検討	区では、各専門相談窓口や民生委員などの身近な相談先等、全ての福祉相談において相談事を一旦受け止め、適切な関係機関につなげるよう連携体制の強化に務めています。また、インターネット回線等を利用した相談対応については、区民ひろばに配置しているCSWの相談対応として実施向け検討を行いました。個人情報保護の観点から、現時点では導入が困難との結論にいたっております。誰もが身近に相談できる体制の構築については、インターネット以外の方法も含め、引き続き検討します。
15	気候を問わず体を動かせる室内遊具施設や、交通公園を設置し健康増進につなげる。	引き続き検討	子どもが十分に遊べる広さのある用地や、屋内施設の確保などの課題を踏まえ、引き続き実現可能性について検討します。
16	路上喫煙に対して過料を科したり、LINE連携やAI通報ができる「歩きタバコ通報・報告システム」を導入する。	引き続き検討	現在も、電話やメール、区民の声などの路上喫煙やポイ捨てに関する苦情に対し、啓発シールの貼付や現場確認等の対応を行っています。通報システムの導入にあたっては、実現性や効果の観点での検証が必要と考えます。
17	メイクの力で、あらゆる世代の自分らしい美を引き出し、心の安定や自信、自己肯定感を高める「美人が溢れる街・ウェルビーイングとしま」を実施する。	引き続き検討	対象者の範囲や、ルッキズムの観点により「豊島美人」ブランドを公的に扱うことの是非に関する課題はありますが、企業・行政の協働・共創での実現も視野に入れ、関係機関と引き続き調整・検討します。
18	芸能やお笑い、テーブルゲームを活用し、世代を問わず心も体も元気になるような体験を提供する。	引き続き検討	区が直接運営するのではなく、区民や民間が主体となるプロジェクトを区が「場の提供」等で後押しする形が理想的と考えます。官民連携により、自律的かつ多様性を包摂した文化活動としての定着を目指します。
19	区立小中学校の情緒障害児固定学級を増設する。	引き続き検討	情緒固定学級の増級については、特別支援学級の在籍児童生徒数の推移を中長期的に分析して検討します。